

## 5 エイズ患者・H I V感染者の人権

H I V感染は、かつてのように「死に至る病」ではなくなりました。効果のある治療が開発され、感染者をとりまく環境は大きく変わっていますが、差別や偏見が現在も残っています。そのために感染者は、病気そのものよりも、差別や偏見への不安にさいなまれながら、感染を隠し続けるという精神的苦痛を強いられている現状があります。エイズ・H I Vについてこれまで学んできたことを確認したり、新たに知ることで、正しい知識を身につけましょう。

また、エイズ患者・H I V感染者に、あなたや周囲の人がどのような関わり方・支援ができるのかを考えてみましょう。

### ワーク 1

エイズ・H I Vについての知識を確認しましょう。

次の1～10について知っていれば○を、知らなければ×を（ ）に書き入れましょう。

- 1 「H I V」は免疫不全（免疫がうまく働かなくなること）を引き起こすウイルスの名称であり、H I V感染症の進行により免疫不全に陥った状態を「エイズ」という。（ ）
- 2 H I Vに感染してからすぐにエイズを発病するわけではなく、症状の出ない潜伏期間が数年から10年ほどある（この期間には個人差がある）。（ ）
- 3 検査で早期発見して適切な治療を続ければ、発病を抑えることができ、エイズで命を落とすことはない。（ ）
- 4 エイズウイルス（H I V）は感染力が弱いウイルスで、感染経路は、「性的接触による感染」、「血液を介する感染」、「母子感染」の3つの経路に限られる。（ ）
- 5 4の経路以外の日常的接触（握手、咳やくしゃみ、風呂やプール、食器等の共同使用等）では通常感染しない。（ ）
- 6 性行為におけるコンドームの正しい使用は、H I V感染症・エイズ予防にとって有効な手段である。（ ）
- 7 H I Vに感染、またはエイズを発症しても、薬を飲み続けるなど適切な治療を継続することによって、普通の生活を送ることができるし、子どもを安全に出産することも可能である。（ ）
- 8 本人がH I V感染に気づかず適切な対応をしないと、他人にH I Vを感染させてしまう可能性があり、それを防ぐためにはH I V感染の早期発見が重要である。（ ）
- 9 日本では、H I Vに感染していたことを知らずに、エイズを発症して初めて気づいたというケースが、新規H I V感染者・エイズ患者数の約3割を占めている。（ ）
- 10 H I V検査は、全国各地にある保健所など（匿名・無料）や、病院・クリニックなどの医療機関（原則有料）で受けられる。（ ）

## ワーク 2

次の文はH I V感染者が、働く上で自分がH I V感染者であることを職場に打ち明けた事例です。10数年前のインタビュー記事であり、H I V感染者をとりまく治療環境は現在とは異なっていますが、事例を読んだ上で（1）について自分の考えを書いた後にグループで意見を出し合しましょう。続いて、（2）について自分の考えを書いた後にグループで意見を出し合しましょう。

コウヘイさん 30代男性

### 感染を知った頃

2002年、地方で行われていたHIV検査イベントで即日検査を受け、翌日に感染が分かりました。体調不良が続いていたので、「もしかしたら」という気もありましたが、結果を知った時には「やっぱり」と「まさか」の気持ちが半々くらいでした。友人にはすぐにカミングアウトをしました。知らせなくてもいい人にまで話してしまい。今、思うと精神状態が不安定だったんでしょうね。

### 仕事について

当時は正社員として働いていました。誰にも話さずに働き続けることが不安だったので、告知から1か月たった頃、年齢が同じくらいの上司に打ち明けました。それまでも個人的な話をする仲だったし、仕事の責任者でもあったので。シフト制勤務で、人数がギリギリだったので、一人が休むと業務が回らなくなる状況でした。もし、僕が体調を崩して休んだら、周囲に迷惑をかけてしまうと思ったんです。上司の考えを聞きながら今後のことを相談するつもりでした。上司は親身に聞いてくれる雰囲気があり、「わかりました、考えてみます」と答えてくれました。

あとから上司の考えを聞かせてもらえるものとはばかり思っていたら、数日後、本社から役員クラスの人が2名来て、別室に呼び出されたんです。そして、いきなり「HIV陽性というのは事実なのか？」と尋ねられました。「そうです」と答えるしかありませんでした。さらに「感染ルートはどういうこと？」「どうやってうつったのか？」など、詰問調で尋ねられて。

やりとり自体が苦痛でしたが、1時間ほど話を続けたあと、「食品の製造関係のため、病気を持った人を現場で使うと、何かあった時に責任を持ってないので、このままの雇用ができない」と言われました。直感的に、これは不当解雇だと思いました。もし自分が解雇されたら、他のスタッフにもしわよせがいきます。だから、「そういう扱いでは困ります」と食ってかかりました。でも、僕も会社の誤解を解くような病気の説明がきちんとできませんでした。会社側は、ハッキリと辞めてくれという言葉は使わなかったものの、規定では退職金が出ない時期であるが支払うという条件を提示してきました。

解雇をほのめかされたことには、納得がいきませんでした。HIV陽性者の友人から聞いていた話から、解雇は普通じゃないと思えたからです。上司や役員の対応には強い怒りを抱きましたが、今思えば、上司も初めて部下にHIVを打ち明けられて、ひとりで何かを決めるのは難しかったのでしょう。

その後、弁護士に相談しました。僕が就労を継続したいと伝えると、弁護士は会社の役員らと直談判しようとしてくれました。その矢先、本社に呼ばれ、部署の上司と人事担当者から、「これまでと同じように働いてください」と言われたんです。体調を気遣われ、事務職への異動を提案されました。

事務職へ異動できたのは、体力的には助かりました。それでも、休みを続けて心証を悪くしないように、けっこう無理をしてしまいましたけれど。

新しい部署では、管轄の上司だけが感染の事実を知っており、会社からは「周囲の人には病気のことを言わないように」と言われていました。上司は最初、僕の体を気遣ってくれているように見えたのですが、次第に割り当てられる残業が少なくなり、いわゆる窓際というか、簡易な仕事ばかりあてがわれるようになりました。収入も激減したうえ、辞職するまでの約4年間、上司は何かにつけて病気のことを持ち出し、査定時には「あなたは病気に甘えている」とも言われました。そう言われても、上司が仕事を配分してくれないので、それ以上の仕事はしたくてもできない状況だったのですが……。次第に通院のために休んだり、定時に帰宅したりすることについて、職場内からも非難的な雰囲気が高まってきました。だんだん職場に居づらい雰囲気ができてきたんです。

自分としては、周囲の人に病気のことを話し、自分の状態や働き方を理解してほしいかったです。周囲からの視線が痛くなるなか、昇給もなくなり、収入は以前の半分程度。徐々に自分のモチベーションも下がっていきました。同僚からは、まるで腫れ物に触るように接してこられ、席も窓際で一人きり。孤独感が強くなり、転職について準備をするようになりました。そして、上司から小言を言われたのをきっかけに、自分から辞めたいと切り出したんです。今ふり返ってみると、いつ、どんな風に職場にHIVを打ち明けるか、もっと考えたり、誰かに相談したりしてから言えばよかったかなと思います。打ち明けない選択もあったはず。その時は言うしかないと思っていたんです。

仕事を辞めてから2年半がたちますが、現在は仕事をしていません。会社員として働くこと自体にも違和感を覚えるようになりました。会社によってHIV陽性者への対応は違うかもしれません。海外の工場に視察に行くと、HIVについての啓発ポスターが貼られていたりします。日本でも、会社の意識が高まり、免疫障害者の雇用の前例ができれば、変わってくるかもしれないですね。

「15人の語りで学ぶHIV陽性者と地域生活 事例から支援を考える」厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 地域におけるHIV陽性者等支援のための研究班 編（平成21年3月31日）より

※引用文の一部を削除して掲載しています。

(1) この事例において、どのような職場環境がコウヘイさんの生活を妨げていると思いますか。

(2) 自分（の職場）ならどのような支援ができると思いますか。

### ワーク 3

グループワークをとおして感じたことを書きましょう。

## ■ 資料 1 暮らしに役立つ情報（政府広報オンライン）

### ストップエイズ！

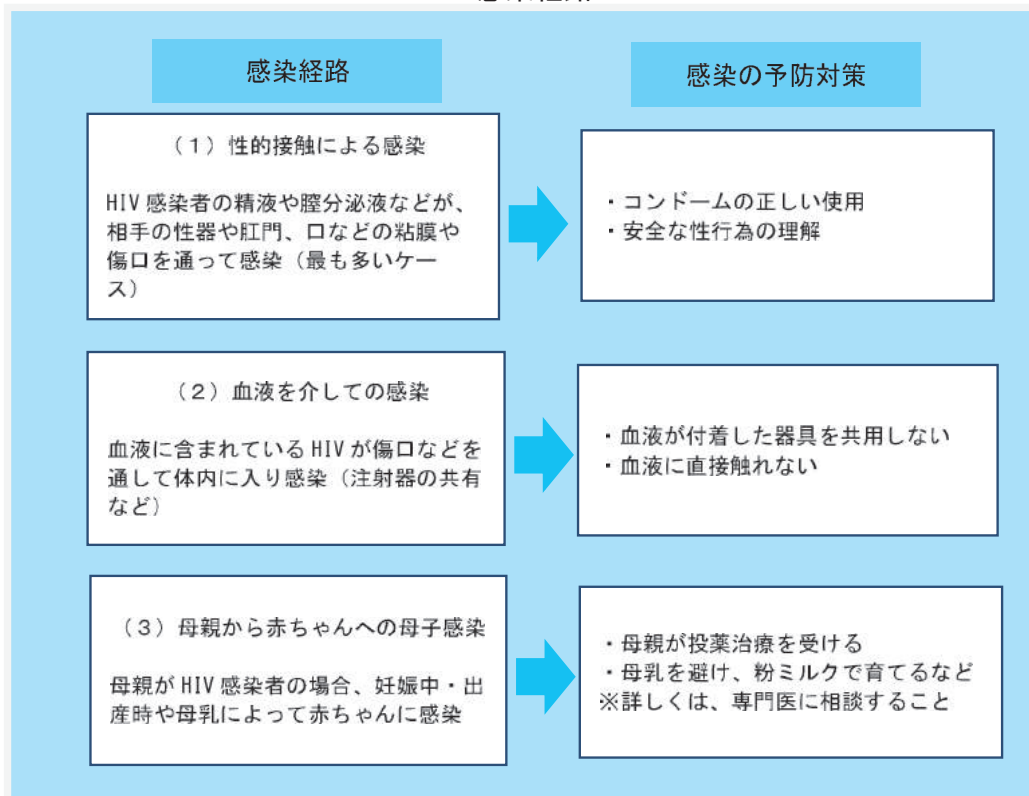
今は「不治の特別な病」ではなく、コントロール可能な病気です。  
まずは早めに「HIV 検査」を

昔は不治の病というイメージがあったエイズ。現在では様々な治療薬が開発されたおかげで、適切な治療によって症状をコントロールしながら、普通の生活を送ることができるようになってきました。感染予防のために正しい知識を理解することが重要です。また、早期発見と治療のためにも HIV 検査が大事です。全国の保健所などでは匿名・無料で HIV 検査や相談ができますので、ぜひ利用してください。

○感染を防ぐには？ 主な感染ルートは3つです

HIV は血液や精液、膣分泌液などに含まれますが、感染力が弱いため、日常生活（握手・入浴・缶などの回し飲みなど）ではうつりません。主に次の3つの感染経路に限られているため、正しい知識を持って予防策をとることで、HIV 感染のリスクを減らすことができます。

#### 感染経路



○感染・発症したら治せるの？ 早期の発見・治療で発症を抑えられます。

「不治の特別な病」ではなく、コントロール可能な病気です

今のところ、体の中にある HIV を完全に取り除くことはできません。ただし、医療の進歩によって様々な治療薬が開発されたおかげで、体内にいる HIV の増殖をおさえ、免疫力を維持することが可能になっています。万一、HIV に感染、またはエイズを発症しても、薬を飲み続けるなど適切な治療を継続することによって、普通の生活を送ることができますし、子どもを安全に出産することも可能です。なお、エイズ発症後での治療は、発症前と比べて難しくなるため、より高い治療効果を得るためには、HIV 感染を早期に発見し、早期治療につなげることが大変重要です。

○HIV 検査を受けるには？ お近くの保健所で匿名、無料で受けられます

HIV 検査は、全国各地にある保健所など（匿名・無料）や、病院・クリニックなどの医療機関（原則有料）で受けられます。HIV 検査施設については、次のホームページから検索できます。 A P I - N e t （エイズ予防情報ネット）

## ■ 資料 2

### 大切な友達や恋人から「HIVに感染している」と知らされたらどうする？

これまでHIV陽性者に会ったことがないし、これから会うこともない」と思っていますか？

ぶれいす東京の研究グループの調査で、全国1,000人以上のHIV陽性者が回答した結果、「パートナーや配偶者に病気のことを伝えている」という人は8～9割でしたが、「会社など職場の仲間や上司に伝えている」という人は、たった1割前後でした。また、友達に知らせている人は4割程度でした。日本にはおよそ3万人の陽性者が暮らしていますが、感染しているかどうかは、見た目ではわかりません。もしかしたら周りにいないのではなく、伝えられていないだけかもしれません。

**大切な友達、学校や職場の仲間から「感染がわかった」と知らされたら、どんな言葉をかけますか？**

まずは、HIV陽性者たちが、なぜその事実をあなたに知らせたのかを想像してみましよう。自分のことを理解して欲しい、嘘はつきたくないと思っている人も多いですし、恋人やこれから付き合いたい人には、性的な関係になる前に説明したいと願うHIV陽性者は多いです。あなたのことを信頼しているからこそ、あなたに話したのかもかもしれません。そうした場合には、「HIV陽性である」ということを、周りに話してもいいのか、言わないで置いて欲しいのかを本人に確認してみてください。

そして他にどうして欲しいのかも尋ねてみましょう。

相手に何かをして欲しいのではなく、HIVに感染していても、一緒にいてくれるだけで十分という人が多いようです。

〈記事〉著者 NPO 法人ぶれいす東京代表 生島嗣「Me x (ミークス)」NPO 法人 3keys ウェブサイト

# 解説5 エイズ患者・H I V感染者の人権

## 1 ねらい

H I V感染は、かつてのように「死に至る病」ではなくなった。効果のある治療法が開発され、感染者をとりまく環境は大きく変わっているが、差別や偏見が現在も残っている。そのために感染者は、病気そのものよりも、差別や偏見への不安にさいなまれながら、感染を隠し続けるという精神的苦痛を強いられている現状がある。ここでは、エイズ・H I V感染に関する正しい知識を身につけるとともに、H I V感染者のおかれている状況を少しでも自分のこととして捉え、実際に自分がH I V感染者やエイズ患者に出会った際、どのような関わり方・支援ができるのかをイメージできるようにする。

## 2 進め方

展開例（50分 4～5名のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
<b>1 ワーク1</b> (20分) ① 1～10を読み、知識の確認をする。 ② 教師の解説を聞く。	○ <b>資料1・2</b> を配付し、解説を参考にして、誤解や思い込みをなくし、正しい知識を伝えていく。病気について正しく理解した上で、自分がH I V感染者やエイズ患者に出会った際にどのような行動がとれるのか、具体的にイメージするよう伝える。 ○ また、疾病に対するネガティブなイメージをもたせないように十分に配慮する。
<b>2 ワーク2</b> (25分) ① 事例を読み、4～5名程度のグループに分かれる。 ② どのような職場環境がコウヘイさんの生活を妨げているのかを書き出してみる。(1) ③ グループで意見を交換し、共有する。(1) ④ 自分の職場ならどのような支援ができるかを考えて書く。(2) ⑤ グループで意見を交換し、共有する。(2)	○ 事例を読む際には、(1)(2)の視点をもって読むことを伝える。 ○ 状況に応じて教員がグループの中に入り、意見を引き出す。 ○ <b>資料2</b> を参照するように伝える。
<b>3 ワーク3</b> (5分) グループワークをとおして感じたことを書く。	

### 3 解説

#### (1) ワーク1について

ここではH I V及びエイズについて正しい知識を伝えたい。H I Vは感染力が弱く、主な感染経路が限られているため、日常的接触では通常感染しないこと、検査によるH I V感染の早期発見が適切な治療につながり、エイズの発症を抑えられること、また、適切な治療を継続することでH I Vに感染していても普通の生活を送ることができ、治療を開始することで、他人への感染を防ぐことにもなることを強調したい。

1、2…H I V感染とエイズの関係を確認する。

3、7…H I V感染に気づき、治療を開始すると、やがて、H I V陽性者のほとんどが治療によって血液中にH I V（ウイルス）が見つからないレベル、検出限界以下になる。

治療を継続して体内のウイルス量が減少すれば、H I Vに感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されている。

4、5、10…資料1

6 …性行為におけるコンドームの正しい使用は、H I Vに限らず、他の性感染症予防にもとても有効な手段である。

8、9…詳細は、「ストップエイズ！今は「不治の特別な病」ではなく、コントロール可能な病気です。まずは早めに「H I V検査」を」政府広報オンライン（平成29年12月1日）及び「日本における近年のH I V感染者・エイズ患者の発生動向」厚生労働省エイズ動向委員会「平成28年エイズ発生動向一概要」を参照

#### (2) ワーク2について

実際に自分がH I V感染者やエイズ患者に出会った際、どのような関わり方、支援ができるのかをイメージできるようにしたい。

事例から等身大のH I V感染者の姿に触れ、（1）「どのような職場環境が、H I V感染者の生活を妨げているのだろうか」、（2）「どのような支援ができるだろうか」を念頭において読むように指導する。また、事例に触れることで疾病に対するネガティブなイメージをもたせないよう、十分に配慮する。

本事例における支援のためのポイントの例は次のようなものが挙げられる。

2002年当時、自分が仕事を休むことで周囲に迷惑をかけてしまうと懸念したコウヘイさんは、上司にH I V陽性を伝え、相談をしました。コウヘイさんは、上司から個人的なアドバイスをもらうことを期待していたにもかかわらず、会社の役員に呼び出されてH I V感染の事実を確認される事態になってしまいました。会社側が感染経路を尋ねることは、業務には何ら関係のない質問であり、不適切なものです。また、退職金の話を持ち出し、解雇をほのめかすことも、不当解雇



に該当する場合があります。

コウヘイさんが弁護士に相談をすると、会社側は態度を一変させ、その結果、勤務を続けることは可能になったものの、いわゆる“窓際”の扱いを受けることで、コウヘイさんは辞職を余儀なくされてしまいます。

H I V陽性を伝えたあと、明確に解雇を申し渡されない場合でも、上司によるパワーハラスメント行為や不適切な指示、同僚との人間関係や職場の雰囲気などの理由によって、H I V陽性者が働きにくい状況がつけられてしまうことがあります。

この経験のあと、コウヘイさんは仕事に就いていませんが、今後の人生設計について考えるさいには、過去のさまざまなトラブルやその影響についても、話をよく聴いていくことが求められるかもしれません。

「15人の語りで学ぶH I V陽性者と地域生活 事例から支援を考える」厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 地域におけるH I V陽性者等支援のための研究班 編（平成21年3月31日）より

資料2の記事内容にも触れ、生徒にH I V感染者のおかれている状況を少しでも自分のこととして捉え、実際に自分がH I V感染者やエイズ患者に出会った際やH I Vに感染していることを打ち明けられたときにどのような関わり方・支援ができるのかをイメージできるようにしたい。

### <参考資料>

「暮らしに役立つ情報」（平成29年12月1日）政府広報オンラインウェブサイト

「Human Rights 人権教育を考える」神奈川県・神奈川県教育委員会（平成29年4月1日）

「API-Net H I V／エイズの知識」エイズ予防情報ネット ウェブサイト

「10代のための相談窓口まとめサイトMe x（ミークス）」掲載記事「大切な友達や恋人から『H I Vに感染している』と知らされたらどうする？」著者 特定非営利活動法人ふれいす東京代表 生島嗣（平成30年2月6日）特定非営利活動法人3keys運営ウェブサイト

特定非営利活動法人ふれいす東京ウェブサイト

「H I V／エイズの基礎知識」公益財団法人エイズ予防財団発行パンフレット（平成27年）

「人権教育ハンドブック」神奈川県教育委員会（平成30年4月）